

事件番号

昭和四年う第五二号  
平成

証人尋問調書

(この調書は、第五回公判調書と一体となるものである。)

裁判所  
書記官印

氏名

山口成良

職業

大学教授

年齢

六四年

住居

金沢市小立野一丁目二一番八号

尋問及び供述

別紙速記録のとおり

以上

宣<sup>せん</sup> 誓<sup>せい</sup> 書<sup>しょ</sup>

良心<sup>りようしん</sup>に従<sup>したが</sup>つて、ほんとうのことを申<sup>もうし</sup>上げま  
す。知<sup>し</sup>つてゐることをかくしたり、ないこ  
とを申<sup>もうし</sup>上げたりなど、決<sup>けつ</sup>して致<sup>いた</sup>しません。  
右<sup>みぎ</sup>のとおり誓<sup>ちか</sup>います。

山口 良



原本番号

昭和  
平成

五年（刑）第三〇四号の一

# 速記録

平成五年七月二〇日  
第五回  
口頭弁論  
（公判）

事件番号

昭和  
平成  
四年（う）第五二号

証人  
氏名

山口成良

（裁判長は、証人持参の、平成五年五月二五日付け証人作成の「廣野秀樹 精神鑑定書」と題する鑑定書を証人が見ながら証言することを許可した）

弁護人

先生のお書きになられた精神鑑定書ですが、この鑑定書のうち、事実関係、特に第二章の「本人歴」とございますけども、この関係は、先生、何に基づいてというか、何を資料となされて作成なされたものでしょうか。

一応、本人の陳述、それから一件記録、それから小学校・中学校の成績表を取り寄せて書きました。

この中で、犯行時の状況、それから本人の意思と気持ちというのが相当詳細に書かれているんですが、これは主に何に基づかれたものでしょうか。

これは、本人の陳述です。

先生が本人からお聞きになって、それで、それに基づいて記載されたということでしょうか。

そうです。

この犯行時の状況につきまして、先生のほうで「強姦」という表現を使われておいでるんですが、それから、別のところでは「姦淫」という表現をお使いになっている箇所もございますけども、これは、言葉は意識してといいますか、そういう趣旨で使われているわけでしょうか。

まあ、そこまで純法律的な解釈ではなくて、普通に使う言葉として使っております。

そうしますと、この犯行時の状況で、先生のほうで「強姦」という表現を使われてい



るんですが、これは、法律的表現での、法律用語としての「強姦」と、そういうふう  
に解釈しなくてもいいんでしょうかね。といいますのは、この訴訟では「強姦」かどう  
かというのをちょっと争っていますので、それをちょっと伺っておきたいんですが。

もちろん、刑法でいう「強姦」という意味で私たちは使っていると思うんです  
けども、ただ、細かく「準強姦」とか、そういう言葉を法律で使いますけど、  
我々、日常生活では余り使わないんですけど、一応、刑法でいっている「強姦」  
という意味で我々は使っていると思います。

先生がお使いになったその意味なんですが。

ええ、そうです。そういう意味です。

それで、第四章の中の七枚目の初めの中間部分ですが、ここで、「犯行時点において強  
姦の故意は明らかに有していたと思われる。」というふうに先生のほうでお書きになら  
れているんですけれども、これも、その「強姦」、いわゆる反抗を抑圧する程度の、  
反抗を抑圧して姦淫するという、そういう趣旨で先生はお使いになられているんですよ

うか、それとも、むしろ「姦淫」という意味なんでしょうか。

一応、やはり「強姦」の意味に私は書いております。

法律用語においての「強姦」という趣旨で書きになっていると。

はい。

ただ、その後で、第四章の一番最後のページの一行目ですが、「ただし、強姦行為の前後においてうんぬん」と、「被害者が心神喪失もしくは全く抗拒不能の状態にあったという自覚は、被告人に乏しかったものと推察される。」というふうにお書きになられています。そうすると、先生のこの表現からいきますと、被告人自身、その「強姦」、つまり反抗を抑圧してうんぬんという意味は希薄だったということになりますか。

その文章の意味は、これは「準強姦」を説明するための文章です。被害者が一応応答しているから、一応、被害者が心神喪失とか全く抗拒不能の状態ではないかと思っていたというだけで、法律でいう「準強姦」というのは、心神喪失の方に対してとか全く抗拒不能の人に対して強姦を行った場合

にそうなっていますんで、私、そこを説明するために、本人はそういう状態ではなかったんじゃないかというふうに思って、「本人は強姦した」というふうに思ったんですが。

### 検察官

この精神病質と責任能力の問題に関しましてはいろんな考え方があるかと思うんですが、先生がこの鑑定をされたお立場というのは、一般的に言って、精神学会でどなたでも普通に採用されているような考えに基づいてなされたということでしょう。

ええ、そうです。

### 裁判官（松尾）

先生の鑑定書の中に、被告人の性格特徴、それと、それに基づくところの本件<sup>犯行</sup>抵抗時の各反応の内容が書かれておるわけですけども、それぞれの被告人の性格特徴及び各反応のその異常性の程度といえますか、これはどのように見たらよろしいんでしょう。

加入二字  
削除二字



うか。

まあ、この程度というのは非常に数値で表しにくいので、この方は、鑑定の主文にも書いてありますように、もしクルト・シュナイダーの分類とするならば、一応、爆発型の精神病質人格じゃなかろうかと。その辺の程度をどうこうというのは、これは、だれもそういうスケールを作っていませんですから、そういうことはちょっと程度をつけにくいんですけど、まあ、クルト・シュナイダーの爆発型の人格特徴をある程度満たしているだろうということを書いてあるわけです。これは、本人の生い立ちからのいろいろな、小・中学校での性格、それから本人の陳述からみても自分は非常に怒りっぽいというようなことは述べておりましたし、私の質問の途中にでも、やはり腹を立てたこともありますし…。

平成五年七月二六日

名古屋高等裁判所金沢支部第二部

裁判所速記官

西村 美喜子